

HP Systems Insight Manager 5.0 SP3 - Windows用README
HP Systems Insight Manager 5.0 Update 1 - HP-UX用README
HP Systems Insight Manager 5.0 Update 1 - Linux用README

Copyright (c) 2003-2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.
製品番号 : 359314-198

目次

HP SIM 5.0アップデートの製品 リリース インフォメーション

1. HP SIM 5.0 SP1 - Windows
2. HP SIM 5.0 SP2 - Windows
3. HP SIM 5.0 SP3 - Windows
4. HP SIM 5.0 with Update 1 - HP-UX
5. HP SIM 5.0 with Update 1 - Linux

既知の問題 :

自動イベント処理に関する問題
ブラウザに関する問題
中央管理サーバに関する問題
証明書に関する問題
CLIに関する問題
クラスタに関する問題
収集に関する問題
コンプレックスに関する問題
エージェントの設定および修復タスクに関する問題
コンテナ ビューに関する問題
カスタム コマンドに関する問題
データ収集に関する問題
データベースに関する問題
検出に関する問題
イベントに関する問題
ホスト名に関する問題
HP BladeSystem Integrated Manager 2.0に関する問題
HP Serviceguard Managerに関する問題
HP Systems Insight Managerに関する問題
HP-UXパフォーマンスに関する問題
識別に関する問題
初期ProLiant Support Packインストールに関する問題
インストールに関する問題
ライセンス マネージャに関する問題
Linuxシステムに関する問題
ロケールに関する問題
メニューに関する問題
MIBに関する問題
MOZILLAに関する問題
Partition Managerに関する問題
Performance Management Packに関する問題
PINGに関する問題
postgreSQLに関する問題
印刷に関する問題
レポート機能に関する問題
検索に関する問題
セキュリティに関する問題
サインインに関する問題
SNMPに関する問題
ソフトウェア/ファームウェアに関する問題
SSHに関する問題
システム ページの問題

タスクに関する問題
ツールに関する問題
ツールボックスに関する問題
トラップに関する問題
ツリー ビューに関する問題
アンインストールに関する問題
アップグレードに関する問題
Vulnerability and Patch Management Packに関する問題

日本語対応に関する補足：

Windows用HP Systems Insight Managerバージョン5.0 の
日本語言語ブラウザでの参照に関する制限
ドキュメントについて
Email通知トラップで送信されるイベント情報に関する問題
ポケットベルによるイベント通知に関する問題
Windows用HP Systems Insight Managerバージョン4.0 からの
アップグレードに関する問題
Linux用HP Systems Insight Managerバージョン4.1 からの
アップグレードに関する問題
アップグレード後、英語のメニューが作成されてしまう問題
イベント リストに表示されるトラップ情報に関する問題
英語版（表示言語に英語を設定した）ブラウザでの表示に関する問題
Virtualization Management Software 2.0.2（プラグインツール）に関する制限
Vulnerability and Patch Management Packに関する制限
MIB（Management Information Base）のイベント情報について
エージェント設定のレプリケートの表示について
SNMPのLocation（場所）/Contact（連絡先）情報に日本語ストリングを入力した
場合の不具合について
英語OS環境にインストールしたSIMを日本語言語ブラウザから参照する場合の制限
CSVフォーマットのレポート出力について
HP Systems Insight Managerのドキュメント

HP SIM 5.0アップデートの製品 リリース インフォメーション

1. HP SIM 5.0 SP1 - Windows

これは、HP Storage Essentials Enterprise Editionのインテグレーションのサポートのための特別な中間リリースです。

一般には提供にしませんでしたが、SP2リリースですべての機能を提供します。

2. HP SIM 5.0 SP2 - Windows

このリリースは、SP2までのすべてのサービス パックが含まれた、HP SIM 5.0 Windows版の完全なインストールを提供します。

HP SIM 4.xからフル インプレース アップグレードを提供します。

このリリースは、主にインストールに関する問題を解決します。

HP SIM 5.0が正常にインストールされている場合は、HP SIM 5.0 SP2をインストールする必要はありません。

- 管理対象システムの信頼が破壊される、または正しく設定されているのに確立されない、HP SIMの信頼の問題を修正しました。
- データベース システム上のWindowsセキュリティ ポリシーが次のように設定されている場合、HP SIMのインストール中に「無効な認証情報」となる問題を修正しました。

ネットワーク セキュリティ： LAN Manager 認証レベル - NTLMv2 応答のみ送信/

LMとNTLMを拒否する

注： リモート データベースでは、中央管理サーバ (CMS) 上のWindowsセキュリティ ポリシーは、同じ設定でなければなりません。
詳しくは、Microsoft Knowledge Base article 823659を参照してください。

- HP SIMインストーラがパスワードとアカウント名に有効な特定の文字を受け入れない問題を修正しました。この問題は、かなり改善されましたが、スペースを含むパスワードやアカウント名に関するいくつかの潜在的な問題があります。
- 新しいHP ProLiant Essentials Virtual Machine Management Pack (VMM) 2.0.1 :
 - HP SIMインテグレーション： すべてのVirtual Machine Management Pack機能は、HP SIMメニュー、HP SIM検出、識別、イベント通知および処理、特定の仮想マシン (VM) ホストへの役割ベースのアクセス、タスクのスケジュール (例、VMバックアップ)、およびグループ ベースのアクションに統合されました。
 - 柔軟な移動： HP SIMからVMware VMotionテクノロジーを起動してVMを実行している間、または異なるESXホスト間で移動するためにVMを停止した後に高速SANベース移動を起動している間、またはホストがESXでないかSANに接続されていないときにファイル コピー移動を起動している間に、ESXホスト間でVMを移動します。
 - 障害ホスト リカバリ： 代替ホストをVMに割り当てることで障害ホストリカバ리를可能にします。
ホストに障害が発生した場合、代替ホスト上ですばやくVMを再起動します。
 - CPUスレッシュホールドの設定： ホストおよびVMパフォーマンス ページおよびレポート、およびCPUスレッシュホールドの設定、HP SIMでアラートを受信する機能をアップデートしました。
- 新しいHP ProLiant Essentials Server Migration Pack (SMP) 2.0.1:
 - すべてのServer Migration Pack機能は、HP SIMメニュー、HP SIM検出、ソースの識別、ターゲット プラットフォーム、およびマイグレーションスケジュールのためのHP SIMスケジューリング メカニズムに統合されました。
 - Virtual-Physicalマイグレーション (V2P) : VMware ESX/GSXまたはMicrosoft仮想マシンから物理サーバへのマイグレーションを自動化しました。
起動CDで実行したウィザードにより、ターゲット物理マシンの設定を簡単に行うことができます。
 - P2Vのディスク リサイズ： P2Vマイグレーション中に、ドライブとパーティションを落として、ターゲット仮想ホストのドライブ スペースの有用性を向上します。
 - P2VのネットワークVM： ネットワーク システムでターゲットVMを設定すると、ネットワーク上のVMをすばやく設定することができます。
 - 1年間無制限マイグレーション ライセンス： 最初のマイグレーションから、1年間無制限のマイグレーションが可能な新しいServer Migration Packライセンス タイプになりました。
- HP ProLiant Essentials Performance Management Pack (PMP) 4.0.1には次のものが含まれます。
 - HP SIM 5.0のサポート (このバージョンのPMPはHP SIM 4.xをサポートしません)
 - Oracleデータベースのサポート (ローカルまたはリモート)

- 特定の機種 of HP Integrity サーバのサポート

PMP 4.0.1 :

- Red Hat Linux 4.0 のサポート
- ProLiant BL25p サーバのサポート
- インストール時に古い PMP データベースを削除するか残すかを選択するオプションを追加しました

3. HP SIM 5.0 SP3 - Windows

- このリリースは、SP3 までのすべてのサービス パックが含まれた、HP SIM 5.0 Windows 版の完全なインストールを提供します。
HP SIM 4.x からフル インプレース アップグレードを提供します。
HP SIM 5.0 がインストールされている場合、Softpaq 31749 を使用して HP SIM 5.0 SP3 - Windows にアップデートしてください。
- 不具合の修正

4. HP SIM 5.0 Update 1 - Linux

- このリリースは、HP SIM 5.0 Update 1 - Linux 版の完全なインストールを提供します。HP SIM 4.x からフル インプレース アップグレードを提供します。
HP SIM 5.0 がインストールされている場合、HP SIM 5.0 Update 1 - Linux kit を使用して Update 1 にアップデートしてください。
- 不具合の修正

5. HP SIM 5.0 with Update 1 - HP-UX

- このリリースは、HP SIM 5.0 Update 1 - HP-UX 版の完全なインストールを提供します。HP SIM 4.x または 5.x からフル インプレース アップグレードを提供します。
- 不具合の修正

既知の問題

自動イベント処理に関する問題

収集を作成するには、メンバーを個々に選択とメンバーを属性で選択という2つの方法があります。

自動イベント処理は、メンバーを個々に選択による収集の作成はサポートしていません。自動イベント処理タスクを作成しているときに、アクションを選択するための手順では、これらの収集はリストされません。

特定のシステムのリストおよび自動イベント処理でサポートされている収集を作成するには、属性によるメンバーをベースとして収集を作成し、属性としてシステム名を選択し、特定のシステムを選択します。

[追加]をクリックして複数のシステムを選択することができます。

この手順は、メンバーを個々に選択するオプションを使用して、自動イベント処理タスクの作成するのと同じ機能です。『HP Systems Insight Managerテクニカルリファレンス ガイド』の「システム、クラスタ、イベントの監視」章の「システムの高度な検索の実行」項を参照してください。

HP SIM 4.0からアップグレードされたAction on Eventsタスク（自動イベント処理タスク）は、期待どおりに実行されません。

これは、タスクがHP SIM 5.0にアップグレードする前に実行されていない場合、すべての自動イベント処理タスクで発生します。

この問題を解決するには、タスクを編集し、保存してください。

mxtask -lf コマンドで特定の自動イベント処理タスクのXML情報を収集し、別の自動イベント処理タスクを作成するために、mxtask -cf XMLfilenameを使用してそのXML情報を使用することができます。

自動イベント処理タスクがすでにその名前前で存在する場合、XMLファイル名の実際のタスク名を変更する必要があります。

問題を引き起こすものが1つあります。オリジナルの自動イベント処理タスクがイベントで作成されて、既存のイベント収集ではなくタスクの作成中にシステム基準の情報を指定した場合、オリジナルのタスクで作成されたクエリは、テンポラリでオリジナルタスクが存在している間では存在しません。

同じイベント収集が新しい自動イベント処理タスクで使用された場合、そのタスクは無効になり、オリジナル タスクが削除されるとイベント収集は削除されます。別の問題として、オリジナルのタスクから収集されたXMLデータが新しい自動イベント処理を作成するために使用された場合、オリジナル タスクが削除されます。このとき、「invalid or missing XML data」と表示されます。

XMLはオリジナルのタスクと一緒に作成し、その後に削除したイベント収集を参照しているため、XMLファイルから自動イベント処理タスクを再作成することはできません。GUIを使用して新しい自動イベント処理タスクを作成し、オリジナル タスクと同じ特性を指定する必要があります。

この問題は、タスクが以前に[イベントおよび指定するシステム プロパティから]オプションを選択して作成された場合にのみ発生します。

Mozillaを実行していて自動イベント処理タスクを作成する場合、タスクが複数のイベント条件で作成されると、イベント タイプ条件最後に選択することはできません。イベント タイプ条件を最後に選択した場合、イベント タイプ条件はタスクには含まれません。イベント タイプ条件がリストにある条件のみの場合は適用されません。

[詳細検索]機能で[表示]または[名前を付けて保存]をクリックすると、これと同じ問題が発生します。[表示]または[名前を付けて保存]を正常に動作させるために前の段落で記載した回避方法を使用してください。

ブラウザに関する問題

Windows Server 2003上でMicrosoft Internet Explorer 6.0.3790.0を使用してHP SIMをブラウズしているとき、ホームページの下隅のビルボードが空白になります。

この問題を解決するには、Internet Explorerの[Webページのアニメーションを再生する]

を有効にしてください。
このオプションを有効にするには、[ツール]、[インターネット オプション]、[詳細設定]の順に選択し、マルチメディア セクションの[Webページのアニメーションを再生する]にチェックをつけます。

HP SIMからPMPツールを起動する際に、「Page Not Found」ブラウザ エラーが表示される場合は、ネットワーク上でCMS名のリンクが正しく解決されていない可能性があります。ブラウザ ウィンドウで使用されている名前をメモして、ネットワーク上でその名前が解決されることと、ブラウザのプロキシ設定がエラーの原因になっていないことを確認してください。

HP SIMがインストールされている同じLinuxシステム上のSystem Management Homepageにアクセスする場合、ブラウザの警告メッセージが複数表示されることがあります。

1. ターミナル ウィンドウを開きます。
2. コマンド プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
cp /etc/opt/hp/sslshare/* /opt/hp/sslshare
```

3. [Enter]キーを押します。
4. コマンド プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
"service hpsmhd restart"
```

5. [Enter]キーを押します。
-

中央管理サーバに関する問題

完全なDNS名を使用してWindowsシステム上のHP SIMにアクセスできない場合は、WindowsのDNS設定が正しく設定されていません。
これには、以下のような原因が考えられます。

- [ネットワーク接続]のTCP/IP設定が正しくない。

以下の対応をおすすめします。

1. CMS上で[コントロール パネル]を開き、[ネットワーク接続]、[ローカル エリア接続]、[プロパティ]、[インターネットプロトコル (TCP/IP)]、[プロパティ]、[詳細設定]の順に選択します。
2. [DNS]タブをクリックします。
3. [この接続のDNSサフィックス]にシステムの完全なDNS名が表示されていることを確認します。
4. [この接続のアドレスをDNSに登録する]チェックボックスと[この接続のDNSサフィックスをDNS登録に使う]チェックボックスがチェックされていることを確認します。

- CMSのシステム名が正しく設定されていない。

以下の対応をおすすめします。

1. CMS上で[コントロール パネル]を開き、[システム]を選択します。
 2. [ネットワークID]をクリックします。
 3. [コンピュータ名を変更したりドメインに参加したりするには[プロパティ]をクリックしてください]の横の[プロパティ]または[Change]をクリックします。
 4. ダイアログ ボックスで、[詳細]をクリックします。
 5. プライマリDNSサフィックスが正しく設定されていることを確認します。正しくなければ正しく設定して、すべてのダイアログが閉じるまで[OK]をクリックします。
- クライアントのブラウザのプロキシの設定が、プロキシ ローカル システムに設定されている。

以下の対応をおすすめします。

1. Internet Explorerで、[ツール]、[インターネット オプション]、[接続]、[LANの設定]、[詳細設定]の順にクリックします。
 2. CMSのDNSサフィックスを[例外]リストに追加します。
- ご使用のDNSサーバに問題がある可能性もあります。
- 社内のネットワーク サポート グループにお尋ねください。

ローカルのCMSに、新しいドライバ、ファームウェア エージェントなどのソフトウェアをインストールする場合は、十分に注意して計画してください。 CMSが強制的に再起動されるなど、異常な結果が発生することがあります。

Windows上にCMSをインストールする場合、CMSのロケールはユーザのデスクトップ ロケールを使用して決定されます。たとえば、ドイツ語版のWindowsシステムにCMSをインストールする場合、ユーザのデスクトップ ロケールが英語だと、インストールされるCMSも英語版のCMSになってしまいます。

mxlog.txt (ログ ファイル) の言語は、現時点では、CMSのロケールによって決まります。CMSが英語版のWindowsシステムにインストールされブラウザのロケールも英語の場合でも、インストーラのユーザ デスクトップ ロケールがドイツ語であれば、mxlog.txtはドイツ語で記録されます。

これは、HP Systems Insight Managerサービスの[ログオン]プロパティが、システム環境を指定するLocal Systemではなく、インストール ユーザ名として設定されるため発生します。サービスがデータベース アクセスやその他のCMS設定に必要な証明書を保有するには、アプリケーションをインストールしたユーザの証明書を使用してサービスを実行する必要があります。

この問題が発生し、別の言語（ドイツ語または英語）でログを記録したい場合は、以下の3つの方法を使用できます。

- HP SIMを停止します。 HP SIMサービスの[ログオン]プロパティで指定されているユーザ アカウント（インストールを実行したユーザ）のデフォルトロケールを、希望の言語に変更し、サービスを再起動します。
- HP SIMを停止します。 HP SIMサービスの[ログオン]ユーザを、ローカル管理者

のアカウントに変更し、そのロケールが希望の言語に設定されていることを確認してから、サービスを再起動します。

- 上記のどちらのアカウントのデフォルト ロケールも変更したくない場合は、目的のデフォルト ロケールを設定した管理者レベル アカウントを新しく作成します。

その後、HP SIMをアンインストールし、作成した新規の管理者レベル アカウントを指定して、HP SIMを再インストールします。

Internet Explorer 6 Service Pack 1をインストールしたWindows NT 4.0システムでは、CMSにリモートからアクセスし、数時間接続すると、DLL障害が発生します。これは、WindowsのCMSおよびHP-UXのCMSで発生します。

証明書に関する問題

IPv6が有効になっているサーバにHP SIMをインストールすると、サーバの証明書の名前として、システム名の代わりに、IPアドレスが使用される可能性があります。

この問題を解決するには、新しい証明書を作成します。

1. HP SIMにサインインします。
2. [サーバの証明書]ページにアクセスします。 [オプション]、[セキュリティ]、[証明書]、[サーバの証明書]の順に選択します。
3. [新規]をクリックして、[共通名 (CN)]フィールドにサーバの名前を入力します。
4. [OK]をクリックしてサーバの証明書を作成します。
5. HP SIMを再起動して、新しい証明書が有効になるようにします。

デフォルトでは、Windows Server 2003に付属されているInternet Explorer 6は、新たなWebサーバを信頼済みサイトのリストに追加するかどうかを尋ねてきます。このオプションを無効にした場合は、手作業で信頼済みサイトを設定する必要があります。

信頼済みサイトのリスト作成を、ウィザードに行わせる場合には、HP Systems Insight Managerでこの問題は発生しません。ただし、HP SIMサーバへアクセスするサイトのエントリを手作業で追加する場合には、Internet ExplorerがインストールされているWindowsシステムが、システムとアクセス権をどのように管理するかを理解する必要があります。

HP SIMに280番から50000番のポートへのリダイレクトを許可するには、信頼済みサイトのエントリとしてHTTPとHTTPSの2つが必要です。

Internet ExplorerがインストールされているWindowsシステムは、信頼済みサイトの識別をホスト名の文字列比較という単純な方法で行います。あるサイトのIPアドレスを信頼済みサイトのリストに追加しても、URLでホスト名を使用した場合にはそのサイトは認識されません。同様に、サイトのDNS名を信頼済みサイトのリストに追加しても、URLで異なるWINS名を使用した場合にはそのサイトは認識されません。

指定する信頼済みサイトは、HP SIMサーバへのログインに使用するURLのホスト名と正確に一致している必要があります。

HP SIMのサーバ証明書およびマネジメントHTTPサーバの証明書は、インストール時に同期化されます。

ただし、HP SIMのインストール後再起動を行い、この操作が有効になるようにする必要があります。

この操作が完了するまでは、HP SIMにアクセスしようとしたり、HP SIMがインストールされているサーバのサーバ エージェントを管理しようとしたりすると、複数の証明書に関する警告メッセージが表示される可能性があります。

新しいHP SIM証明書を作成する場合、証明書の名前には非ASCII文字を使用できません。非ASCII文字を使用すると、「Error - invalid parameter」という内容のエラーメッセージが表示されます。

----- CLIに関する問題

既存の認証されたHP SIMユーザ グループメンバーでも、CLIコマンドを実行しようとすると次のようなメッセージが表示されることがあります。

「There was a problem connecting to the SIM server.

Be sure that:

1. Your username has been added to HP SIM.
2. Your username and password, if specified, are incorrectly spelled.
3. HP SIM is not running.
4. You used '--' for any long options and double quotes if your username includes a domain.

For example, <commandname> --user "mydomain¥myusername" --pass mypassword.」

ユーザ グループ メンバーシップは、最初にHP SIM GUIにサインインしたときに確認されます。
そのため、CLIコマンドを実行する前にWebブラウザからサインインする必要があります。

mxoracleconfigは、HP SIMコンフィギュレーションで、スラッシュ (/) を含むOracle ユーザ名を使用している場合に失敗します。

LinuxでHP SIMをrpm -Uvhでアップグレードする場合、"hpsim-pgsql-config"のインストール中の%表示が100%ではなく50%で終了しますが、これは無視しても問題ありません。

mxagentconfig -rは、有効なコマンドではなく、パラメータが必要です。
有効なパラメータについては、mxagentconfig manpageを参照してください。

Windows Administratorsグループではないメンバーは、CLIコマンドを実行できません。

CLIコマンド オプションに日本語文字を使用すると、正しく渡されずに、エラー メッセージが表示されます。
このエラーは、SuSE 9またはRed Hat 4.0ターゲット システム上で発生します。

mxrepositorysaveおよびmxrepositoryrestoreはサポートされていません。すべてのリファレンスはpg_dumpおよびpg_restoreに置き換える必要があります。

----- クラスタに関する問題

クラスタの識別は、システムがクラスタかクラスタ ノードであるかを確認するために、WBEMとSNMPを含む多くの異なるエージェントを使用します。

SmartStart 6.30 CDで起動すると、SmartStartは、すべてのクラスタリング エージェントをインストールすると表示しますが、クラスタリングSNMPエージェントのうち一つは完全にインストールないことがあります。

クラスタの識別で問題がある場合は、各クラスタ ノードのレジストリに次のキーを追加してください。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE,"SOFTWARE\Compaq\CompaqCommonClusterAgent\CurrentVersion",  
Value:Pathname,%REG_EXPAND_SZ%, "%SystemRoot%\%System32%\svrclu.dll"
```

各クラスタ ノードのSNMPサービスを再起動します。

この問題は、the SmartStart 7.4 CDで修正されます。

SNMPエージェント有りまたは無しのCluster Association for Linux ServiceGuardクラスタは、HP SIM 5.0でサポートされません。

----- 収集に関する問題

設定に関する全権を持ったユーザとしてサインインした場合に、CMSを[すべてのシステム]収集に表示させるには、自動生成された管理ユーザに、[すべてのツールとすべての管理対象システム]、および[すべてのツールとCMS]という2つの権限を付与してください。[すべての管理対象システム]権限には、CMSは含まれていません。

非常に多くの条件項目（システム名条件、イベント タイプ条件）が選択された収集を編集する場合は、条件リストが構築されるまでブラウザが応答しなくなります。

Red Hatサーバが時々デフォルトRed Hatの収集に表示されないことがあります。
この問題を回避するには、'Red Hat'（スペース無し）を収集に含めるようにカスタマイズしてください。
収集のカスタマイズについては、『HP Systems Insight Managerテクニカル リファレンス ガイド』を参照してください。

----- コンプレックスに関する問題

検出されたコンプレックス システムは、コンプレックスにあるnParの数に関して矛盾があるかもしれません。
nParのシステム ページまたはレポートを通してコンプレックスを参照すると、nParの個々のnParの状態にかかわらず、nParの数の代わりにコンプレックス中に潜在的あるnParの合計が表示されます。
その代わりに、システム収集でコンプレックスのnParを参照すると、コンプレックスに関連するnParの数は、HP SIMがWBEMプロバイダから確認した数と等しくなります。
そのため、システム収集のnParの数は、システム ページまたはレポートで表示される数と同じか少なくなります。

エージェントの設定および修復タスクに関する問題

エージェントの設定および修復タスクを設定する場合、ターゲット サーバの数を100台以下に制限して、内部で作成されるWindowsのコマンドがWindowsのコマンド ラインの最大長を超えないようにしてください。

クリティカル、不明、および非管理ターゲット システムを結合するエージェントの設定および修復タスクは、0%でハングアップしますが、しばらくすると処理は完了します。

コンテナ ビューに関する問題

HP ProLiant BL30pサーバ ブレードをエンクロージャ（筐体）から取り外して、その場所に別のサーバ ブレードを取り付ける場合、HP SIMからBL30pシステムを手作業で削除してください。

そうしないとラック/エンクロージャの図が正しく表示されない可能性があります。

現在何も設置されておらずエンクロージャも取り外されているラックのピクチャー ビューは、灰色のボックスで表示され、情報もいっさい示されない可能性があります。
この場合、ラック システムを安全に削除できます。

ラックのテーブル ビューに何も表示されていないが、ピクチャー ビューにはラックの図が表示される場合は、検出を再実行してください。
電源プラグを抜き取ってから再度接続すると、このエラーが発生する可能性があります。

HP ProLiant BL e-Classブレード サーバまたはHP bc1000ブレードPCのピクチャー ビューに何も表示されていないが、テーブル ビューにはすべてのブレードが正しく表示される場合は、インテグレートッド アドミニストレータ マネジメント プロセッサで識別を実行してください。

この問題は、ブレードが検出される前に、インテグレートッド アドミニストレータが検出されると発生します。

1. [オプション]、[検出]、[システムの識別]の順に選択します。
2. [ProLiant BL e-Class Integrated Administrator]を選択します。

3. [すぐに実行]をクリックします。

カスタム コマンドに関する問題

DOSの環境変数は、カスタム コマンド パラメータでサポートされていて、[新しいカスタムコマンド]ページまたは[カスタム コマンド管理]ページでパラメータとして動作します。ただし、%記号2つで囲む必要があります。たとえば、パラメータとしてNOTICELABEL環境変数を渡すには、パラメータ行に%%NOTICELABEL%%に入力する必要があります。環境変数は、バッチ ファイルまたはスクリプト ファイルからもアクセスできます。バッチ ファイルまたはスクリプト ファイルを使用するには、%記号の次に環境変数名を入力します。その他の代用できる変数のリストについては、『HP Systems Insight Managerテクニカルリファレンス ガイド』の「パラメータ化された文字列の置換テーブル」を参照してください。

データ収集に関する問題

[停止]または[削除]をクリックして実行中のタスクをキャンセルし、すぐに同じ種類の別のタスクを実行する場合、前のタスクのキャンセルが完全に終了するまで2回目のタスクは実行されません。

処理中のキャンセルされたタスクのシステムは、完了するまで実行することが許可されます。データ収集やソフトウェア デプロイメントのようないくつかの長時間にわたるタスクについて、実際に処理中のシステムを終了し、最終的にタスクのキャンセルが可能になるまである程度時間がかかります。データ収集が非常に長い時間実行される場合、タスクを停止するか削除し、キャンセルが完了してから5～10分待ってから別のデータ収集タスクを実行してください。

キャンセルしないでデータ収集タスク完全に終わるまで実行する場合は、別のデータ収集タスクは少なくとも15分間実行することができないか、実際にはスキップされるのでタスクは失敗します（その場合タスク インスタンスのSTDOUTに表示されます）。

WBEM接続が原因でデータ収集に失敗した場合は、WMI Mapperプロキシに障害がある可能性があります。

以下の手順を実行してください。

1. 物理的にすべての設定されたPegasus WMI Mapperプロキシを確認します。Pegasus WMI Mapperプロキシをホストしているサーバ上で、[管理ツール]の[サービス メニュー]を開いて、Pegasus WMI Mapperが実行しているかを確認します。
 2. 実行されていない場合は、Pegasus WMI Mapperを起動します。
 3. プロキシを再起動できない、またはPegasus WMI Mapperがアンインストールされている場合は、[オプション]、[プロトコル設定]、[WMI Mapperプロキシ]ページから、CMS WMI Mapper Proxy設定から削除します。
 4. HP SIMで設定されたPegasus WMI Mapper Proxyが、少なくとも1つ実行されていることを確認してください。
 5. システムの権限を確認します。
 6. すべてのシステムで識別を実行します。
-

システムのデータ収集で標準出力に「WBEMプロトコルによるこのシステムへの接続でエラーが発生しました。システム設定を確認してください。」というエラーが表示されて失敗した場合、以下のいずれかが原因である可能性があります。

- wbemportlist.xml fileに適切なポート番号を入力していなかった。

LinuxおよびHP-UXの場合：

/etc/opt/mx/config/identification

Windowsの場合：

c:\program files\hp\systems insight manager\config\identification

上に記載したフォルダは、インストール フォルダの場所を変更していない場合、デフォルトのフォルダとして使用されます。

- 適切なWMI Mapperプロキシ サーバを設定し指定に失敗している。
- 適切なWBEM証明書の指定に失敗した。

ストレージ ホスト上でデータ収集タスクを実行し、デフォルト オプション（既存のデータセットを上書き）の代わりに新規データ セットを追加オプションを選択した場合、データ収集タスクは失敗し、そのストレージ ホストのデータは消去されます。消去されたデータを復元するには、以下の手順に従ってください。

1. HP SIMデータベースからストレージ ホストを削除し、再度検出します。
2. 15分後、既存データ セットを上書きを選択して再度データ収集タスクを実行します。

データベースに関する問題

リモートのWindows XP SP2サーバ上のデータベース サーバでMSDE、Microsoft SQL、またはOracleを使用する場合、リモート サーバのファイアウォール設定がオフにする必要があります。これを行うには、以下の手順に従ってください。

1. [スタート]、[コントロール パネル]、[Windowsファイアウォール]の順に選択します。
2. [オフ]をクリックします。

検出に関する問題

Linuxサーバが管理対象外システムとして検出された場合は、以下の手順に従ってください。

1. エージェントをインストールする前に、検出されたシステムの/etc/hostsファイルに、必ず、次のような変更を行います。

```
#Do not remove the following line, or various programs
#that require network functionality will fail.
127.0.0.1 localhost
172.24.30.34 HPSIM HPSIM.wbemqa.com HPSIM
```

注記：上記のIPアドレス、ホスト名、およびエイリアスを、ご使用のローカル ホストのIPアドレス、DNS名、およびホスト名と置き替えてください。

2. エージェントをインストールします。

3. /etc/snmp/snmpd.confファイルに以下の行が追加されていることを確認します。追加されていない場合は、SNMPサービスを停止して手作業で入力し、SNMPサービスを再起動します。

```
rwcommunity private
rocommunity public
```

注記：使用するコミュニティ名は、CMS上のコミュニティ名と一致するようにしてください。

上記の手順が完了すれば、システムは正常に検出されます。

ProLiantシステム上で実行されるLinuxについての詳細情報を検出するには、以下のいずれかの手順に従ってください。

- システムにLinux ProLiantエージェントをインストールします。最新のLinux ProLiantエージェントをインストールするには、HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/manual>にアクセスしてください。
- snmpd.confファイルを更新します。このオプションを選択して、snmpd.conf ファイルを更新しないと、システム テーブル ビュー ページの[OS名]列には、オペレーティング システムの正式な名前（例：Red Hat Advanced Server）の代わりに、[Linux]が表示されます。

この問題を解決するには、以下の手順に従ってください。

1. SNMPデーモンを停止します。
2. /etc/snmp/snmpd.confファイルに次の行を追加します。

```
rocommunity public
```

3. SNMPを再起動します。

Hostsファイルを使用してシステムを手作業で検出する場合、システムのプロトコル設定を確認する必要があります。

この操作を実行するには、[システムおよびイベント]パネルで[すべてのシステム]をクリックし、システムの名前をクリックして、新しく検出されたシステムの[システムページ]にアクセスします。

[ツール&リンク]、[システム プロトコル設定]の順に選択します。

HP SIMは、インターネット規格（DNS RFC1034で指定された規格）に準拠するホスト名をサポートします。許可されるホスト名の文字数は、64文字未満で、文字、数字、およびハイフン以外を含むことはできません。アンダースコア、スペースなどの他の文字および記号はサポートされていないため、ホスト名にこれらを使うと異常な動作が発生します。これは、VMでも同様です。

名前に特殊文字を含むシステムがある場合は、特殊文字はダッシュ (-) で置き換えられます。

たとえば、エンクロージャにEncl/2という名前が付けられている場合、HP Systems Insight Managerは、このエンクロージャを「Encl--」と表示します。

SNMPとSMI-SプロトコルをサポートするCiscoファイバ チャンネル スイッチなどのシステムでは、HP SIMに2つの別々のシステムとして表示されます。

PA-RISCベースのシステムの場合、HP SIMはマネジメント プロセッサとサーバの連携をサポートしません。

イベントに関する問題

コマンド ライン (mxwbemsub) またはGUI ([オプション]、[イベント]、[WBEMイベントの登録]の順に選択) からWBEMイベントに登録しようとして、「String index out of range」というエラー メッセージが表示される場合は、ローカル ホスト名がDNS経由で完全修飾名に対する問題を解決したかどうかを確認してください。コマンドには、正しく動作させるためのDNSの完全修飾名が必要です。

イベントを削除またはクリアするために設定に関する全権を持たないユーザを有効にするには、イベントのクリアおよびイベントの削除ツールでツールボックスを作成します。

1. [オプション]、[セキュリティ]、[ユーザおよび認証]の順に選択します。
2. [ツールボックス]タブをクリックし、[新規]をクリックします。
3. [名前]フィールドで、新しいツールボックスの名前を入力します。
4. [説明]フィールドで、新しいツールボックスの説明を入力します。
5. [ツールボックスは有効です]を選択します。
6. [カテゴリのツールを表示]のドロップダウン リストからカテゴリ ツールを選択します。
7. [イベントの削除]および[イベントのクリア]を選択し、それらを[ツールボックス]の内容ウィンドウに移動します。
8. [OK]をクリックします。

次に、イベントをクリアまたは削除を許可するユーザにシステムの権限を作成します。

1. [オプション]、[セキュリティ]、[ユーザおよび認証]の順に選択します。
2. [認証]タブをクリックし、[新規]をクリックします。
3. [選択]フィールドで、ツールボックスを割り当てるためのユーザまたはユーザグループを選択します。
4. [ツールボックスの選択]セクションで、手順2で作成したツールボックスを選択します。

ファームウェアをバージョン2.30以降にアップデートする必要があります。

ファイバ チャンネル スイッチのファームウェアのアップデートをダウンロードするには、[SAN Infrastructure](#)ページ：

<http://h18006.www1.hp.com/storage/saninfrastructure/switches.html>

にアクセスして、[M-Series Fabric]セクションの[McDATA 4Gb SAN Switch for HP p-Class BladeSystem]をクリックしてください。

HP Serviceguard Managerに関する問題

Windows Server 2003では、HP Serviceguard Manager 4.0は、サポートされません。

HP Serviceguard Manager 4.0がHP SIMと統合された後で、このツールをアンインストールすると、HTTP 404エラーが表示されます。このエラーは、Serviceguard Managerのアンインストール アプリケーションが、次の位置にあるwebappsディレクトリの下にあるsgmgrディレクトリを削除するために発生します。

HP-UXおよびLinuxの場合：

```
/opt/hpwebadmin/webapps
```

Windowsの場合：

```
¥ProgramFiles¥HP¥Systems Insight Manager¥hpwebadmin¥webapps
```

今後、HTTP 404エラーが表示されないようにするには、LinuxまたはHP-UX上のパス (/var/opt/mx/tools) から次のコマンドを使用してHP SIMからこのツールを削除する必要があります。

```
mxtool -r -f sgmw-web-tools.xml
```

将来、Serviceguard Managerを再インストールする場合は、LinuxまたはHP-UX上のパス (/var/opt/mx/tools) およびWindows上のパス (¥ProgramFiles¥HP¥Systems Insight Manager¥tools) から、必ず、次のコマンドを使用してこのツールをHP SIMに追加してください。

```
mxtool -a -f sgmw-web-tools.xml
```

注記：Serviceguard Managerツールを使用するタスクがあって、ツールを削除した後で再びツール追加した場合、ツールを再追加したことでGUIDが変更されるため、そのタスクは機能しない可能性があります。これらのタスクは、削除してから再度追加する必要があります。この条件、HP SIM 5.0に統合されているHP Serviceguard 5.0には適用されません。

HP SIMに関する問題

HP SIMは、Pegasus WMI Mapperのバージョン2.0.1には対応していません。HP SIM 5.0には、Pegasus WMI Mapperのバージョン2.1が付属しているため、HP SIMにはこのバージョンを使用することをおすすめします。このMapperをインストールするときは、HP SIMと一緒にインストールした場合のデフォルトの、表示を有効にしておくことをおすすめします。

Red Hat Linuxでは、HP SIMを停止する前にmxstopを実行して、再起動すると、HP SIMデーモンが自動で開始されません。ただし、再起動のコマンドを実行したときにHP SIMが実行していた場合、自動で開始されます。デーモンが自動で開始されない場合、 mxstartコマンドを実行して開始することができます。

HP-UXパフォーマンスに関する問題

HP-UXシステム上で手動でパフォーマンスを向上させるには、HP-UXシステム上で構成された追加のJavaヒープ スペースで実行するようにHP SIMを設定してください。

1. mxstopコマンドを実行し、HP SIMサービスを停止します。
2. HP-UX 11.0および11.11 (11i v1) PA-RISCのネイティブ アプリケーションのヒープ サイズを拡張します。

HP-UX 11.11 (11i v1) PA-RISC Install Required Patch (および依存するパッチ : PKHL_28428 (またはその代替りのパス))

Javaヒープを1500MBから2400MBにするには :

```
cd /opt/mx/bin
chattr +q3p enable mxdomainmgr
```

詳しくは、http://www.hp.com/products1/unix/java/infolibrary/prog_guide/expanding_memory.html#considerationsを参照してください。

3. グローバル設定を設定し、JVMヒープ サイズを拡大します。

```
vi /etc/opt/mx/config/globalsettings.props
```

- a. 次の内容を挿入します。

```
JVMMAXHEAP=750
```

- b. 変更を保存して終了します。

4. mxstartコマンドを実行し、HP SIMサービスを開始します。

識別に関する問題

HP SIM4.xをHP SIM5.0にアップグレードすると、アップグレード後のシステムの[システム ページ]にある[製品ID]フィールドは空白になります。識別とデータ収集を再実行して、この情報を収集する必要があります。

SNMPベースのHP NASシステムを検出して正しく識別するには、[グローバル プロトコル設定]ページでcpqPublicコミュニティ名を追加する必要があります。[グローバルプロトコルの設定]ページにアクセスするには、[オプション]、[プロトコル設定]、[グローバル プロトコル設定]の順に選択します。

情報のプロバイダによっては、矛盾したオペレーティング システムのバージョン情報が返されます。

たとえば、Microsoft社のWMIは、Windows NT、Windows 2000、Windows XP、およびWindows 2003のすべてのオペレーティング システムのタイプについて、常にWindows NTを返します（Windows NT以外のタイプのコード値が定義されていたとしても同様です）。また、SNMPプロバイダのデータも一部のWindowsバージョンでは整合性がありません。

たとえば、Windows XPシステムは、Windows NTのシステム リスト ページに表示されます。また、Windows XPシステムの[システム ページ]の[識別]タブは、Windows XPとWindows NTの両方を[ソフトウェアの説明]フィールドに表示します。

ServiceguardクラスタはHP-UXシステム上でのみ識別されます。LinuxまたはWindows上では識別されません。

Emulex ホスト バス アダプタ (HBA) を使用していて、System Pageのいくつかの論理ユニット番号 (LUN) を失った場合、回避策はそのシステムにデータ収集を返すことです。

これを行うには、以下の手順に従ってください。

1. [オプション]、[データ収集]の順に選択します。 [データ収集]ページが表示されます。
2. ターゲット システムを選択します。
3. [次へ]をクリックします。
4. 次のどちらかを選択してデータを保存する方法を指定します。
 - 既存データ セットを上書き (詳細解析用)
特定の時刻にネットワークのスナップショットを提供します
 - 新規データ セットを追加 (時系列変動解析用)
傾向と用法の解析を提供します
5. [すぐに実行]をクリックします。

デュアル ポートEmulex 1050C HBAカードを搭載しているシステムでは、2つのシングルポートHBAとしてHP SIMに表示されます。Emulex 1050DCカードは実際には、1つの物理カード上に2つのシングル ポートHBAがあり、それぞれ個別にSCSIコントローラを持っているため、これは正しい動作です。

HP SIM4.2 SP2からHP SIM 5.0にアップグレード後、すべてのネットワーク システム、ラック、エンクロージャが正しく認識されるかを確認するために識別を実行する必要があります。

1. [オプション]、[システムの識別]の順に選択します。 [システムの識別]ページが表示されます。
2. ターゲット システムまたは収集を選択します。
3. [適用]をクリックします。
4. [すぐに実行]をクリックします。

HP SIM 5.0にアップグレード後、HP SIMにサインインして、すべての関連が正しくアップデートされているかを確認するためにデバイス識別（毎日）タスクを実行します。この手順は、アップグレード後HP-UX、Linux、およびWindows CMS上で実行する必要があります。

識別（毎日）タスクを実行するには、以下の手順に従ってください。

1. [タスク&ログ]、[スケジュールされたすべてのタスクの表示]の順に選択します。
[スケジュールされたすべてのタスク]ページが表示されます。
2. [デバイス識別（毎日）]タスクを選択します。
3. [すぐに実行]をクリックします。

CMSがWMI Mapperプロキシとして使用されている場合、BC1000ブレードは不明、または非管理の状態が表示されます。この問題を修正するには、[グローバル プロトコル設定]ページでCMSのWBEM証明書を入力するか、[システム プロトコル設定]ページでCMSのシステム プロトコル設定を編集します。

CMSで再度識別を実行し、ブレード上で識別を実行します。プロトコル設定および識別の実行については、『HP Systems Insight Managerテクニカルリファレンス ガイド』を参照してください。

初期ProLiant Support Packインストールに関する問題

[SSH（Secure Shell）のインストールと初期化を行います。]と[正常にインストールした後、必要な場合は、システムを再起動します。]オプションが両方とも選択されていると、初期ProLiant Support Packのインストール途中で、インストールが0%でハングアップします。

初期ProLiant Support Packインストールで、[必要な場合は強制的にダウングレードします。]を選択すると、ターゲット システムのNICがダウンしてしまうため、このオプションを使用しないようにしてください。

インストールに関する問題

HP SIMのインストールは、特定の文字をサポートしていません。インストール時に、SSHクライアントとしてCMSが登録されず、データベースの初期化に失敗します。

インストール中に、HP SIMをインストールするフォルダの場所を参照またはタイプするオプションがあります。フォルダ名には、次に示す文字のみサポートされています。A-z、0-9、スペース、ハイフン (-)、アンダーバー (_)、およびピリオド (.)。

Oracleデータベースを使用している場合、Oracleデータベースとユーザ アカウントは、前もって作成しておく必要があります。
ユーザ アカウントは、DBA権限が必要です。

Oracleデータベースは、AL32UTF8 unicode文字セットおよびAL16UTF16 National Character Setで作成する必要があります。
NLS Lengthは、BYTEに設定する必要があります。

ojdbc14.jarファイルは、法的な理由でHP SIMバンドルに含めることができないOracle Database Connectivityのために必要です。
このファイルへのパスは、HP SIMのインストール中のデータベースの設定で指定する必要があります。

リモートまたはローカルのOracleデータベースに、HP-UXまたはLinux上で実行しているCMSを設定するには、mxoracleconfigを実行します。
このコマンドは、Oracleデータベースの詳細です。
要求される値を提供し、mxinitconfig -aを実行します。

[標準]インストールでは、OpenSSHサービスはローカル管理者として実行します。
[標準]インストール オプションが選択されている場合。 [カスタム]インストール中は、ローカル管理者権限と一緒にユーザを指定することができます。
このユーザ アカウントは、管理者アカウントで、OpenSSHを正しく実行できる権限のあるユーザを指定する必要があります。
以下のユーザ権限が必要で、OpenSSHインストーラがこのアカウントに必要な応じて自動的に追加します。

- サービスとしてログオン
- トークン オブジェクトの作成
- プロセス レベル トークンの置き換え

これらは、[ローカル セキュリティ ポリシー]管理ツールによって制御できます。
ドメイン ポリシーはこれらの設定を制御することがあるので、その場合これらの設定がドメイン ユーザに設定される必要があるかもしれません。

MSDEをインストールした後で、1つまたは複数のダイアログ ボックスが表示されてリポートを要求された場合、HP SIMを確実に正しくインストールするには、このリポートを受け入れる必要があります。

WindowsのインストーラはInternet Explorer 6.0以降がインストールされているかどうかを確認し、6.0以降がインストールされていない場合は、インストールを中止します。
Internet Explorer 5.x以前のバージョンがインストールされている場合、HP SIMのインストールを正常に完了するには、Internet Explorer 6.0以降にアップグレードする必要があります。

カスタム コマンドを実行するには、ドメイン ユーザがローカル管理者グループ（またはドメイン管理者）の一部である必要があります。

Windows 2003で、ドメイン ユーザ アカウントをHP SIMに追加した後、アカウントを追加したユーザに対して、カスタム コマンドが実行しない場合は、以下の手順を実行してください。

1. 次のコマンドを実行して、ドメイン ユーザ情報をグループ ファイルとパスワード ファイルに追加します。

- sshuser -u <username> -d <domain name> >> .%etc%passwd
- mkgroup -d >> .%etc%group

2. 次のコマンドで、SSHキーをインストールします。

- mxagentconfig -a -n <nodename of CMS> -u <username>

ローカルMSDEデータベースと一緒にHP SIMをドメインのメンバーではないWindows XP SP2にインストールする場合、簡易ファイルの共有を使用するオプションは無効になります。Windows XP Professionalの簡易ファイルの共有設定は、ローカル ユーザを認証する方法を変更します。

Windows XP Professionalの簡易ファイルの共有設定は、ローカル ユーザを認証する方法を変更します。

有効 = Guestのみ - ローカル ユーザーがGuestとして認証する

無効 = クラシック - ローカル ユーザがローカル ユーザとして認証する

この設定は、ローカル セキュリティ ポリシー エディタで参照することができます ([スタート]、[コントロール パネル]、[管理ツール]、[ローカル セキュリティ ポリシー])。

[セキュリティの設定]、[ローカル ポリシー]、[セキュリティ オプション]、[ネットワーク アクセス: ローカル アカウントの共有とセキュリティ モデル]の順に選択します。

この変更は、データベースのインストールのために必要です。

'rpm --verify hpsim-pgsql-config'コマンドを実行すると、特定の障害のあるファイルを報告します。
ファイルが「missing」と表示されても、これらは無視しても問題ありません。

標準インストールを使用してHP SIMをMSDEと一緒にインストールする場合に、以前インストールに使用したユーザ アカウントと異なるユーザ アカウントを使用すると、「database initialization failed 123」というエラー メッセージを表示して失敗します。

HP SIMは、スペースを含むオペレーティング システムまたはデータベースのユーザ名またはパスワードをサポートしません。

HP SIMは、スラッシュ (/) またはバックスラッシュ (\) を含むOracleユーザ名をサポートしません。

Oracleでは、ユーザ名またはパスワードのクエスチョン マーク (?) には:1が作成されます。

たとえば、user?は、user:1が作成されます。

そのため、データベース設定画面は、クエスチョン マーク (?) を含むOracleユーザ名およびパスワードを渡しません。

「Specified credentials are invalid」というメッセージが表示されます。

この問題を回避するには、HP SIMデータベース設定画面で?:1に置き換えてください。

HP SIMをドメインのメンバーではないWindows XP SP2にインストールする場合、簡易ファイルの共有を使用するオプションは無効になります。

ライセンス マネージャに関する問題

PMPツールとともにライセンス マネージャを使用する場合は、共存するHP SIMホスト上にPMPがそのライセンス情報を維持するように注意してください。
したがって、ライセンス マネージャを使用してキーのインストールや収集を行う場合、PMPについては、必ず、HP SIMホスト マシンをターゲット システムにしてください。
PMPによって実際にライセンス付与されているターゲットがどのターゲットかについては、PMP自体を使用しないとわかりません。
ライセンス マネージャは、使用されているさまざまなキーについての情報を、実際の利用に基づいて提供します。

Linuxシステムに関する問題

HP Insightマネジメント エージェントがインストールされているLinuxのCMSにアクセスして[マネジメント エージェント]をクリックすると、[セキュリティ アラート]ダイアログ ボックスが表示される場合があります。 この場合、マネジメントHTTPサーバ証明書がHP SIMの証明書で上書きされていません。

これは、OpenSSLが正しく設定されていないために発生します。 Linuxでは、OpenSSLを/usr/bin/ディレクトリにインストールする必要があります。

HP-UXでは、OpenSSLを/opt/apache/ssl/bin/ディレクトリにインストールする必要があります。

問題を解決するには、OpenSSLを正しいディレクトリにインストールしてから、新しいHP SIMの証明書を作成してください。

『HP Systems Insight Managerテクニカル リファレンス ガイド』の「ネットワークとセキュリティ」章の「サーバ証明書の作成」項を参照してください。

Linuxシステムで稼動しているHP SIMは、[ソフトウェアとファームウェアのインストール]タスクを実行するバージョン コントロール エージェントからのHTTPイベントを受信しない場合があります。そのため、タスクのステータスが長時間0%のまま変わらず、[タスク結果]ページでは「実行中」と表示されます。

バージョン コントロール エージェントが稼動しているターゲット システムのHostsファイルに、Linux CMSシステムの名前とIPアドレスを追加してください。

<windows dir>%System32%Drivers\Etc%HOSTSファイルを編集し、次の行を追加します。

<HP SIM system name> <HP SIM system IP address>

例：

hpsim01 192.168.1.1

ロケールに関する問題

CLI出力の特定の箇所は、ユーザのCLIターミナルのロケールではなく、デフォルトCMSロケールで表示される言語で常に表示している、システムが生成したテキストが含まれていることがあります。

この状態は、次の2つの問題により発生します。

- このテキストは、**tdef**入力で許可されていない、**tdef**ファイルのローカライズされた正しいキーを提供します。
- このテキストは、CLI出力に表示される1つ以上の"?"文字列で確認できます。

CMSロケールは、**globalsettings.props**ファイルで定義されています。
CMSロケールを変更し、CLIが正しいロケール テキストを生成することを可能にするには、以下のコマンドで**globalsettings.props**ファイルを編集します。

CMSロケールを日本語に設定するには：
`mxglobalsettings -s CMSLocale=ja_JP locale`

CMSロケールを英語に設定するには：
`mxglobalsettings -s CMSLocale=en_US locale`

このコマンドを実行したら、HP SIMを再起動する必要があります。

メニューに関する問題

Internet Explorerは、極端な再表示、サブ メニューオプションがすべて表示されない、マウス動作が追いつかない、およびスクロール バーや通常ではない形式でメニューが重なるなどの不安定な動作になることがあります。

Internet Explorerには、これらの問題を軽減するか、または回避するいくつかの設定があります。

- 解決策1：
 1. [スタート]、[コントロール パネル]、[インターネット オプション]、[セキュリティ]、[信頼済みサイト]の順にクリックし、[サイト]をクリックします。
 2. [次のWebサイトをゾーンに追加する]に、HP SIMシステムを入力し、[追加]をクリックします。
`https://<system name>:50000`としてシステムを追加します。
 3. [OK]をクリックします。
- 解決策2：
 1. [ツール]、[インターネット オプション]、[全般]、インターネット一時ファイルの[設定]、保存しているページの新しいバージョンの確認を選択します。
 2. Microsoftデフォルトの[自動的に確認する]を選択します。 ページにアクセスするイベントを設定すると、問題の原因となります。
- 解決策3：
 1. [ツール]、[インターネット オプション]、[詳細設定]、[セキュリティ]、[暗号化されたページをディスクに保存しない]を選択します。
 2. Microsoftデフォルトの選択を外します。 このオプションを選択すると問題の原因となります。 HP SIMがすでに選択されていると、暗号化されたページはブラウザに保存されません。 HP SIMは、画像とスタイル シートのキャッシュを許可しています。これらのリソースをキャッシュする設定を無効にすると、パフォーマンスが低下します。

MIBに関する問題

MIBファイルの登録後は、ファイルの名前変更、移動、削除は行わないでください。
MIBファイルを登録済みとして表示させるには、MIBファイルがMIBsディレクトリになければなりません。

MOZILLAに関する問題

多数のシステムのデータ収集タスクを作成した後、タスクを実行すると、Mozillaが応答しなくなります。
このエラーは、Mozillaが長時間[タスク結果]ページ上で留まってしまうために発生します。

Partition Managerに関する問題

HP-UX 11i v2 May 2005およびHP-UX 11i v1 September 2005以前のリリースのPartition Managerは、HP SIM 5.xでは動作しません。
Partition ManagerをHP-UX 11i v2 May 2005またはHP-UX 11i v1 September 2005のバージョンにアップグレードしてください。

Performance Management Packに関する問題

PMPのインストール後、HP SIMコンソールにPMPメニュー オプションが表示されない場合があります。

以下のいずれかの手順を実行して、PMPメニュー オプションを手作業で追加してください。

- コマンド ラインから、`mxtool -a -f<PMPのインストール パス>:\Performance Management Pack 3\ToolsMenu\PMPTools.xml`と入力します。
- PMPTools.xmlを、<PMPのインストール パス>:\Performance Management Pack 3\ToolsMenuから、<SIMのインストール パス>:\System Insight Manager\Setupにコピーします。

次に、HP Systems Insight Managerサービスを再起動します。

ユーザ テンプレートまたはオペレータ テンプレートを使用して作成したユーザが、PMPに関するメニューを表示できない場合や、メニューにアクセスした後サインインを要求される（シングル サインオンが機能しない）場合があります。

CMS上で、ユーザ テンプレート ベースのユーザに権限を付与するには、以下の手順に従ってください。

1. 管理者権限でHP SIMにサインインします。
2. [オプション]、[セキュリティ]、[ユーザおよび認証]の順にクリックし、[認証]タブをクリックします。
3. [監視ツール]ツールボックスおよびCMSシステムを使用して選択したユーザ用の新しい権限を作成し、[OK]をクリックします。

注：これにより、ユーザ テンプレートから基づくユーザで十分なユーザ レベルでシングル サインオンが可能になります。 オペレータ テンプレートをベースにするユーザの場合は、より高度なシングル サインオン レベルが必要です。

1. 管理者権限でHP SIMにサインインします。
2. [オプション]、[セキュリティ]、[ユーザおよび認証]の順にクリックし、[ツールボックス]タブをクリックします。
3. [PMP]カテゴリのすべてのツールと[ビュー]カテゴリの[オペレータとしてのSystem Management Homepage]を使用して新規ツールボックスを作成し、[OK]をクリックします。
4. [認証]タブで、新しく作成したツールボックスおよびCMSシステムを使用して選択したユーザ用の新しい権限を作成し、[OK]をクリックします。

移行インストールの終了後、ソフトウェア ステータス ポーリング タスクを実行するまで、PMPのライセンスが、CMS用に追加されないことがあります。インストール後、タスクが自動的に実行されるのを1時間待つこともできますが、手作業でタスクを実行することもできます。

タスクを手作業で実行するには、以下の手順に従ってください。

1. [オプション]、[ステータス ポーリング]、[ソフトウェア ステータス ポーリング]の順に選択します。
2. [すべてのシステム]収集からターゲット システムを選択します。
3. [すぐに実行]をクリックします。

OracleにPMPをインストールする場合は、インストール手順についてはPMPのドキュメントを参照してください。

PINGに関する問題

HP SIMをRed Hat Enterprise Linux 4またはSuSE Linux Enterprise Server 9.0システムにインストールして、1000システム以上を管理する場合は、/ect/sysctl.confファイルを編集して、次のエントリを追加して、カーネル パラメータを変更する必要があります。

```
net.ipv4.neigh.default.gc_thresh3 = 4096
net.ipv6.neigh.default.gc_thresh3 = 4096
```

エントリを追加したらシステムを再起動してください。

postgreSQLに関する問題

ProLiant Support Pack for Linux 7.40およびPostgresql 7.4.7-2をインストールしたRed Hat 4.0は初期化に失敗します。

この問題を回避するには、HP SIMを手動でインストールしてください。

1. コマンド プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
/sysmgmt.bin --keep --confirm (mxbundle.server.installでは"n"をタイプします)
```

2. Postgresql 7.4.7-2.¥をインストールします。
3. HP SIMをインストールします。
4. コマンド プロンプトから次のコマンドを入力します。
`/usr/sbin/setenforce 0`
5. コマンド プロンプトから次のコマンドを入力します。
`chmod 777 /tmp`
6. コマンド プロンプトから次のコマンドを入力します。
`/opt/mx/bin/mxinitconfig -a`
7. インストールが完了したら、コマンド プロンプトから次のコマンドを入力します。
`/usr/sbin/setenforce 1`

Postgresqlは、WAT0タイムゾーンを認識しません - 北アフリカ、モロッコ、モーリタニア、マリ。

----- 印刷に関する問題

HP SIMで、Mozillaブラウザを使用してシステム収集やイベント収集を印刷する場合、印刷ウィンドウで行った変更は、ハードコピーに反映されません。

たとえば、[印刷]をクリックする前に、[設定]をクリックして[片面]オプションが選択されていることを確認します。
[印刷]をクリックします。ハードコピーは両面です。

この問題を修正するには、システムのプリンタ設定を変更し（[設定]、[プリンタ]）、両面印刷の選択を解除します。
[印刷]をクリックします。正しいハードコピーが作成されます。

----- レポート機能に関する問題

レポートの幅が横向き印刷でも広すぎる場合は、レポートをCSV形式で保存して、Microsoft Excelなどのツールから印刷するか、レポート内の各カテゴリについてデータ項目を選択して印刷する必要があります。

レポートをCSV形式で保存する方法については、『HP Systems Insight Manager テクニカル リファレンス ガイド』を参照してください。

注記：これは[スナップショットの比較]レポートを除くすべてのレポートに当てはまりません。

スナップショット比較レポートが、各スナップショットの違いを正確には表示しない場合があります。
この問題は、HP SIMの既知の問題であり、今後のリリースで修正されます。

コンプレックスの報告に関する問題については、「コンプレックスに関する問題」を参照してください。

検索に関する問題

イベント時間条件検索を編集する際にスクリプト エラーが表示される場合、エラーをデバッグするかどうかを尋ねられたら、[いいえ]をクリックしてください。
その後、検索を編集できます。

PostgresqlまたはSysMgmtDBのデータベース上で高度な検索を実行し、オペレーティングシステムの基準を備えたIS NOT属性を使用する場合、その結果は正確ではありません。この問題は、属性を使用したカスタム システム収集の作成および属性を使用した自動イベント処理タスクの作成が含まれています。オペレーティング システムの条件は、オペレーティング システム名、オペレーティング システムの説明、およびオペレーティング システムのバージョンの3つから構成されています。オペレーティング システムの説明は、オペレーティング システムの後の括弧の中にあります。オペレーティング システムの基準とIS NOT比較を使用して検索を実行する場合、基準の一部としてオペレーティング システムの説明とオペレーティング システムのバージョン番号は無視され、誤ったデータを返します。

たとえば、HP-UX 11.11および11.23を実行しているHP-UXシステムがあるとします。オペレーティング システムの基準として表示されるこれらのシステムの名前はそれぞれ、HP-UX (HP-UX B.11.11 U) とHP-UX (HP-UX B.11.23 U) です。たとえば、HP-UX 11.11ではないシステムを参照したい場合は、IS NOT HP-UX (HP-UX B.11.11 U) というオペレーティング システムの基準を作成します。しかし、PostgresqlまたはSysMgmtDBデータベースを使用している場合、IS NOT比較を使用しているオペレーティング システムの基準は正しく動作しないため、HP-UXに等しくないオペレーティング システムをも持たないすべてのシステムを受け取ります。そのため、HP-UX 11.11システムを除外したい場合でも、すべてのHP-UX 11.11および11.23システムが含まれてしまいます。

セキュリティに関する問題

System Management Homepage (SMH) をインストールした後にHP SIMをインストールした場合、SMHの2048ビット キー ペアは、HP SIMの1024ビット キー ペアに置き換わります。

サインインに関する問題

稀に、サインイン証明書の入力後、HP SIMにサインインできない、またはHP SIMからInternet Explorer 6.0でブラウズする際に、管理対象システムにログインできない場合があります。

Internet Explorerの一部のバージョンには、システム名にアンダースコアが使われているとセッションcookieが正常動作しないという問題があります。これは、Internet ExplorerパッチQ313675、またはこのパッチを含む累積パッチ (Q316059やQ319182など) が適用されたInternet Explorerバージョン5.5および6.0にあてはまりません。

そのため、HP SIMで管理されるシステムのシステム名にはアンダースコアを使用しないでください。

HP SIMにアクセスする際にHTTPSホスト名の不一致に関する警告が表示され、[いいえ]をクリックすると、以降も、[はい]をクリックするまでこのメッセージが表示されます。
[はい]をクリックした後、[サインイン]ページにアクセスできます。

HP SIMをスタンドアロン/ワークステーション システムにインストールし、その同じシステムWindowsドメイン コントローラに変更した場合、HP SIMにサイン インできません。

SNMPに関する問題

Windows Server 2003のインストールではデフォルトでSNMPがインストールされないため、手作業でSNMPをインストールする必要があります。
SNMPをインストールしても、セキュリティの設定上、ローカル ホストだけしか使用可能にされません。
このWindows Server 2003のデフォルト設定を変更して、システムが正しく検出されるようにする必要があります。

SNMPサービスのインストール方法については、Windowsのドキュメントを参照してください。

SNMPの設定

SNMPサービスのセキュリティ設定を変更して、他のシステムとSNMP通信ができるようにしなければなりません。
HP SIMで使用しているのと同じコミュニティ名を設定し、通信を許可するIPアドレスのリストには、少なくともHP SIMがインストールされているシステムのIPアドレスを追加する必要があります。

ソフトウェア/ファームウェアに関する問題

スイッチ用の[ソフトウェアおよびファームウェアのインストール]タスクが正常終了したように見えても、ファームウェアがターゲット スイッチに配布されていないことがあります。
これは、"c:\%cpqsystem%\log\%cpqsetup.log"ファイルがロックされていたために、インストーラがエラーコードを表示することなくただちに終了してしまったと考えられます。
この問題を解決するには、このファイルを名前変更または削除して、タスクを再起動してください。

スイッチのソフトウェアとファームウェアの更新を行っても、ソフトウェアは更新されませんが、ファームウェアの更新が行われません。
このエラーを説明するログ ファイルはありません。
この問題は、GbEインターコネクト スイッチの場合はファームウェア バージョン2.1.1、GbE2インターコネクト スイッチの場合はファームウェア バージョン1.2.0で解決されません。

スイッチのファームウェアを正常にアップグレードするには、[グローバル プロトコル設定]ページで、スイッチの正しいSNMP書き込みコミュニティ名を指定する必要があります。

Windows 2003 Advanced Server (EnterpriseまたはStandard Edition) をLinuxシステムにアップグレードした上でソフトウェア/ファームウェアのインストール タスクを実行すると、ステータス0%のままになり、タスクはタイムアウトになります。予期したとおりにタスクが実行されるようにするには、次のように操作してください。

Linuxターゲット システム上で、/etc/hostsファイルを編集し、CMSのエントリを追加します。

/etc/hostsのエントリは、次のように表します。

<IPアドレス><完全修飾ドメイン名> <短い名前>

HP SIMのインストール中にHPバージョン コントロール レポジトリ マネージャをインストールしていない場合は、[ソフトウェアおよびファームウェアのインストール]タスクの実行時にエラー メッセージが表示されます。

エラー メッセージが表示されたら、HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャをインストールして、[オプション]、[バージョン コントロール レポジトリ]の順に選択して、HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャをソフトウェアのデフォルトの設定に戻します。

SSHに関する問題

ドメイン ユーザに対して、mxagentconfigコマンドが正しく動作しない場合は、以下の手順に従ってください。

ユーザのホーム ディレクトリがc:\documents and settings¥<username>になっていないことを確認します。
場合によっては、ドメイン ユーザに対して、ホーム ディレクトリが、c:\documents and settings¥<username>.xxxxなどの別の場所に存在します。 xxxxには、通常のドメイン名が入ります。

この場合は、以下の手順を実行してください。

1. "c:\Program files¥OpenSSH¥etc"フォルダに移動します。
2. ワードパッドを使用して、パスワード ファイルを編集します。
3. ¥home¥<username>と記載されている部分を探します。
4. <username>を<username.domainname>に置き換えます。
5. OpenSSHサービスを再起動します。

SSH認証エラーによりCMS上のツールの実行に問題がある場合は、mxagentconfig -a -n <CMSのノード アドレス> -u Administratorを実行するか、GUIから[設定]から[エージェントの設定および修復]を実行して、ターゲットにCMSを選択してください。

システム ページの問題

パーティションのホスト名がパーティション名と一致しない場合、パーティションのリンクは、コンプレックスのシステム ページからは有効になりません。

これらの名前は同じにする必要があります。

タスクに関する問題

HP-UXまたはLinuxでソフトウェアおよびファームウェア タスクのデプロイを行う場合、タスクは「unable to contact system」というエラーで失敗します。タスクを正常に実行するには、システムリンク設定をシステムのIPアドレスを使用するように設定して、タスクを実行してください。

[オプション]、[セキュリティ]、[システムリンク設定]をクリックします。 [システムリンク設定]ページが表示されます。 [システムのIPアドレスを使用]を選択します。

大量の出力を生成するコマンド ライン タスク（例：ls -laR /）によりDTFがハングする場合があります。
このため、コマンド ライン タスクからの出力が、1MBを超えないようにしてください。

HP-UXシステムでは、設定に関する全権を持ったあるユーザがタスクを編集して、制限付き設定権を持つあるユーザに所有者を変更した後、タスクを表示すると、元の所有者が所有者として表示されます。
別のブラウザを開いてタスクを表示すると、正しい所有者が表示されます。

これは、突発的に発生するエラーです。

ProLiant Support Packの初期インストール タスクを正しく実行するには、HP SIMのインストール後、システムを再起動する必要があります。

再起動していない場合、「Installpsp.batは、内部コマンドまたは外部コマンド、操作可能なプログラムまたはバッチ ファイルとして認識されていません」と説明するエラーメッセージが表示されます。

OpenSSHのインストール タスクを正しく実行するには、HP SIMのインストール後、システムを再起動する必要があります。

再起動していない場合、「Installssh.batは、内部コマンドまたは外部コマンド、操作可能なプログラムまたはバッチ ファイルとして認識されていません」と説明するエラーメッセージが表示されます。

[設定]リンクを使用してターゲット システムに信頼関係を設定した後、[信頼済み?]列は[いいえ]を表示します。

このエラーは、[ソフトウェアおよびファームウェアのインストール]タスク、[初期ProLiant Support Packインストール]タスク、および[エージェント設定のレプリケート]タスクで発生します。

また、このエラーはバージョン コントロール レポジトリの設定パネルでも発生します。

この問題を解決するには、表の上部にある[最終更新日]リンクをクリックして、選択した行を更新します。

現在選択している行は、パフォーマンスに関する理由のみの目的で更新されます。

[最終更新日]リンクが信頼のステータスを更新しない場合は、新しいブラウザ セッションを起動して信頼のステータスを更新します。

HP SIMデータベースで、HPバージョン コントロール レポジトリ システムが存在しないタスクを編集する際に、「The task cannot be edited because the repository used when creating the task is not found in HP SIM or has been deleted and rediscovered. You must delete this task and recreate it using a different repository system.」というメッセージが表示されます。この場合は、異なるHPバージョン コントロール レポジトリ システムを使用して、タスクを再作成する必要があります。

また、このメッセージはHPバージョン コントロール レポジトリ システムが削除されて、後に再検出されることによっても表示されます。

この場合は、HP SIMからサインアウトして、エラーを削除するためにサインインしなおしてください。

タスクの実行中、「Unknown OS」というメッセージが表示されます。この問題を解決するには、以下の手順に従ってください。

1. タスクの実行対象がWindowsシステムの場合、SSHインストール後にそのシステムが再起動されていることを確認してください。インストールを完了するには再起動が必要です。
2. オペレーティング システム タイプを特定できるよう、システムのDMI、WBEM、またはSNMPを使用可能にしてください。その後、データ収集を実行してHP SIMデータベースを更新してください。
3. オペレーティング システムを特定するコマンドが動作することを確認してください。

Windowsの場合 : ver

HP-UXおよびLinuxの場合 : uname

[停止]または[削除]をクリックして実行中のタスクをキャンセルし、すぐに同じ種類の別のタスクを実行する場合、前のタスクのキャンセルが完全に終了するまで2回目のタスクは実行されません。処理中のキャンセルされたタスクのシステムは、完了するまで実行することが許可されます。データ収集やソフトウェア デプロイメントのようないくつかの長時間にわたるタスクについて、実際に処理中のシステムを終了し、最終的にタスクのキャンセルが可能になるまである程度時間がかかります。

たとえば、データ収集が非常に長い時間実行される場合、タスクを停止するか削除し、キャンセルが完了してから5~10分待ってから別のデータ収集タスクを実行してください。

データ収集のように1つのタスクよりも多い場合、アクティブ タスクを停止または削除する前にこれらのタスクを中断してキャンセルしてください。キャンセルしないでデータ収集タスク完全に終わるまで実行する場合は、別のデータ収集タスクは少なくとも15分間実行することができないか、実際にはスキップされるのでタスクは失敗します（その場合タスク インスタンスのSTDOUTに表示されます）。

HP SIM 4.xのRPM Package Manager Toolsを使用して作成されたタスク、Install RPM、Query RPM、Uninstall RPM、およびVerify RPMは、HP SIM 5にアップグレードすると、これらのツールの名前がHP SIM 5.0に変更されてしまうため動作しなくなります。ただし、新しいツールの名前を使用して該当するタスクを作成しなおすことができます。

HP SIM 4.xをHP SIM 5にアップグレードすると、デフォルトのハードウェア ステータス ポーリング タスクは期待したとおりには機能しません。

デフォルトのハードウェア ステータス ポーリング タスクは、WBEMハードウェア ステータス ポーリングを実行しません。タスクは、HP SIM 4.xに含まれていましたが、WBEMハードウェア ステータス ポーリングのチェックボックスは含まれていません。そのためポーリングされません。タスクが編集すると、WBEMのチェックボックスを表示しません。対策としては、タスクを削除し、新しいハードウェア ステータス ポーリング タスクを作成します。

HP SIM 4.xでpingステータスを無効にしている場合、HP SIM 5.xでも無効のままとなり再度有効にすることはできません。変更するには、タスクを削除してから新しいタスクを作成してください。

ツールに関する問題

GUIまたはコマンド ライン インタフェース (CLI) のいずれから、ツールの実行中に、`mxauthenticationexception`が生成されたら、以下の手順を実行してください。

1. ツールを実行しようとしているユーザが、そのシステムでそのツールを実行する権限を持っているか確認してください。
権限の確認と付与については、『[HP Systems Insight Managerテクニカルリファレンス ガイド](#)』を参照してください。
2. ターゲット システム上のSSHデーモンにアクセス可能なことを確認してください。
 - a. CMSから、ターゲット システムに対して、手作業でSSHのインストールを試みます。
ログインする必要はありませんが、接続可能なことを確認します。
 - b. Windowsシステムには管理者としてログインできるか、HP-UXまたはLinuxシステムには"root"として、ログインできるか試みます。

- i. HP-UXまたはLinux CMSの場合 :

```
ssh root@<HP-UX/Linux node>
```

または

```
ssh Administrator@<Windows node>
```

- ii. Windows CMSの場合 :

```
<OpenSSH directory>%bin%ssh root@<HP-UX/Linux node>
```

```
<OpenSSH directory>%bin%ssh Administrator@<Windows node>
```

ホスト キーの受け入れまたはパスワードの入力を求められれば、SSHデーモンにはアクセス可能です。

3. `mxagentconfig`を再度実行して、キーが転送されることを確認してください。

```
mxagentconfig -a -n <node name> -u <user> -p <password>
```

4. ツールを実行しようとしているシステム上で、以下のディレクトリのパーミッションを確認してください。

- ホーム ディレクトリのパーミッション :

drwxr-xr-x (755)

- ホーム ディレクトリ内の.sshディレクトリのパーミッション :

drwxr-xr-x (755)

- .sshディレクトリ内のauthorized_keys2ファイルのパーミッション :

-rw-r--r--または-rwxr-xr-x (644または755)

- a. パーミッションの確認方法 :

Windowsの場合 :

"<OpenSSHインストール ディレクトリ>%bin%ls -ld <ファイルまたはディレクトリ名>"を実行します。

HP-UXまたはLinuxの場合 :

"ls -ld <ファイル名またはディレクトリ名>"を実行します。

- b. パーMISSIONの変更方法 :

Windowsの場合 :

"<OpenSSHインストール ディレクトリ>%bin%chmod <パーMISSION番号> <ファイルまたはディレクトリ名>"を実行します。

HP-UXまたはLinuxの場合 :

"chmod <パーMISSION番号> <ファイルまたはディレクトリ名>" を実行します (パーMISSION番号は前述の数字 (644や755) です)。

コマンドを実行すると、"Execute-as"ユーザがステータスに表示されます。このユーザに対してmxagentconfigを実行する必要があります。

5. 以前はツールが正常実行できていたのに現在は失敗する場合、SSHがターゲットシステムに再インストールされていないか確認してください。SSHを再インストールすると、システムのホスト キーが変更されます。そのため、CMSが使用するSSHクライアントが、接続しようとしているシステムを照合できなくなります。SSHキー チェックが有効の場合、[オプション]、[セキュリティ]、[SSHキー]のシステム キーを削除してください。
6. 管理対象システム上で、ユーザのホーム ディレクトリから.sshディレクトリを削除してください。これにより、mxagentconfigが失敗する原因となる古いキーやパーMISSIONが残っていないことが保証されます。
7. mxagentconfigを再度実行してください。

mxagentconfigがまだ失敗する場合は、SSHが実行されているか確認してください。

1. mxagentconfigで指定したユーザ名がドメインを含んでいないか確認してください。"mydomain%myusername"ではなく"myusername"と指定します。
2. 管理対象システム上で、ユーザのホーム ディレクトリから.sshディレクトリを削除してください。ホーム ディレクトリは、通常、C:%Documents and Settings%usernameです。Windowsのコマンド ウィンドウから、set HOMEPATHと入力すると、現在ログインしているユーザのホーム ディレクトリが報告されます。

これにより、mxagentconfigが失敗する原因となるキーやパーミッションが残っていないことが保証されます。

3. これらの対策を行っても障害が発生する場合は、CMSから管理対象システムに .dtfSshKey.pub ファイルを転送して、手作業でキーをコピーしてください。このファイルは、LinuxおよびHP-UXでは/etc/opt/mx/config/sshtools/にあります。

Windowsでは、<HP SIMインストール ディレクトリ>%config%sshtoolsにあります。

Windowsの場合：

```
<location of .pub file> >>  
" <user home directory>%ssh%authorized_keys2"
```

HP-UXまたはLinuxの場合：

```
"cat <.pubファイルの場所> >> ~/.ssh/authorized_3"
```

mxagentconfig -r コマンドはCMSでは動作しません。

kill オプションは、現時点では、パートナー アプリケーションからはサポートされません。管理対象システムに直接接続して、kill コマンドを入力してください。

Mozilla ブラウザを使用する場合、制限付き設定権を持つユーザは、割り当てられたカスタム コマンド ツールの一部を表示または選択できません。画面解像度 1024 x 768 で表示できるツールの数には制限があります。サイズなどにより異なりますが、通常、画面に表示できるツールの最大数は 25~35 です。

HP SIM 5.0 に付属のバージョンよりも新しいバージョンのツールをインストールすると、ローカライズに影響する可能性があります。両方の TDEF が同じように役立つと思えるが、ローカライズされたバージョンを維持したい場合は、mxtool を使用して、新しいツールに付属の TDEF ファイルを削除し、HP SIM に付属のバージョンを使用してください。

HP SIM ツールを外部のウィンドウで起動する場合、HP SIM で所有したものと同一ユーザ権限を持っていない場合があります。

HP-UX システムで、mxnodesecurity コマンドを使用して別のドメインからシステムを追加する場合、コマンドが正しく機能しません。たとえば、"mxnodesecurity -a -p wbem -c openview%wmi:wmi -n testnode10" と入力すると、"openview" と "wmi" の間の単一のバックスラッシュが消えます。

UNIX のシェル環境は、単一のバックスラッシュをエスケープ文字として認識します。別のドメインからシステムを追加する場合は、正しく認識されるようにバックスラッシュをもう 1 つ追加してください。たとえば、"mxnodesecurity -a -p wbem -c openview%%wmi:wmi -n testnode10" と入力してください。

HP-UX 11i v1およびHP-UX 11i v2システムでは、カーネル パラメータが16進数で設定されている場合、mxinitconfigコマンドが警告を表示します。

HP SIM 4.2から5.0へアップグレードした後で、Windowsターゲット マシン上のコマンドライン ツール を実行することはできません。

Windowsターゲット システムには、Administratorというアカウント名がありません。この問題を解決するには、以下の手順に従ってください。

CMS上で、SSH接続用にAdministratorの代わりに使用するアカウント名を指定してください。

1. HP SIMを停止します。
2. globalsettings.propsにWindowsAdminUserName=newaccountを設定します。

Windows CMSの場合、ファイルは<SIM>%config%globalsettings.propsにあります。

LinuxまたはHP-UX CMSの場合、ファイルは/etc/opt/mx/config/globalsettings.props"にあります。

3. HP SIMを再起動します。

HP-UXシステム用のカーネル設定とカードおよびデバイスWebベース ツールは、次の2つのバージョンがあります。

PeriphDevバージョンB.11.23.05.02およびKernelConfigバージョンB.11.23.20は、HTTPSポート2381上のSystem Management Homepage v.2.2.1.4に統合され、HP-UX 11iv2 0512 OE/URリリースで初めて利用可能になります。

PeriphDevバージョンB.11.23.03およびKernelConfigバージョンB.11.23.10は、ポート1110上のWAサーバを使用し、HP-UX 11iv2 0512 OE/URより前のHP-UX 11iv2 リリース上で一般的に利用可能です。

HP SIMのカーネル設定 (kcweb) とカードおよびデバイス (pdweb) メニュー項目は、CMSにインストールされているバージョンのどちらを実行するかを設定します。

注: ターゲット システムが、別のポートを使用してインストールされたkcwebまたはpdwebの異なるバージョンを持つシステムを実行するよう選択した場合、エラーが発生します。

ポート2381に接続したKcwebバージョンB.11.23.20およびpdwebバージョンB.11.23.05.02は、autostartが有効にされています。ただし、HP SIMを使用してこれらのツールを起動するため、ポート1110に接続するkcwebバージョンB.11.23.10またはpdwebバージョンB.11.23.03を実行している場合、このバージョンのツールを実行している管理されたそれぞれのノード上で以下の手順を実行して、そのポートでautostartを有効にする必要があります。

WAサーバも同様に、auto-start HTTPポート1110からリモートで、HTTPSポート1188上でサーバを開始することを可能にするautostartオプションをサポートします。

HP SIMからkcwebおよびpdwebツールを使用するためには、wacnfコマンドを使用してこのauto-startオプションを設定する必要があります。

さらに、NISを使用している場合は、WAがポート1110を登録するために/etc/servicesを使用するので、SAMを使用してサービスのための検索順序を設定する必要があります。

1. WAサーバのauto-startを有効に設定するには、以下を実行します。

```
$ /usr/sbin/waconf -a on
```

2. 必要に応じて、サービスの検索順序を設定します。

この手順は、ご使用の環境のネットワーク構成によって異なります。
NISを使用している場合、SAMを実行して、サービスを設定することで、NISにwebadmstartサービスが見つからない場合、検索が"FILES" (/etc/services)に継続しているかを確認してください。

```
$ /usr/sbin/sam
```

- a. [Networking and Communications]、[Name Service Switch]の順に選択します。
- b. [Services and Action]、[Configure]の順に選択します。
- c. [Search Order for NIS]で、[Try Next Source]と2番目のソースとして/etc/servicesを入力します。

ここで、再起動するか問い合わせがあります。番号を選択します。

3. WA autostart設定をテストします。

現在の検索設定を参照するには、以下を実行します。

```
$ more /etc/nsswitch.conf
```

NISでは、以下のように表示されます。

```
services: nis [NOTFOUND=continue UNAVAIL=continue] files
```

HP SIM以外のauto-startをテストするには、次のアドレスをブラウザで開きます。

```
http://systemname:1110/pd/pd.cgi
```

"systemname"には、システム名を入れます。

Red Hat 4でinitconfigを実行すると、DCschema40.sqlおよびschema40_41.sqlの場合は、

```
"org.postgresql.util.PSQLException: ERROR: row is too big: size 9556,
maximum size 8136"
"WARNING: FAILED the following SQL command:".
"org.postgresql.util.PSQLException: ERROR: view "r_inventory" does
not exist"
```

またはschema42_50.sqlの場合は、

```
"org.postgresql.util.PSQLException: ERROR: view "r_inventory" does
not exist" というエラーが発生します。
```

エラーはログ ファイルに記録されますが、このエラーによる機能的な障害はありません。

HP SIM Webインタフェースで新規ファイル コピー ツールを作成して、この新しいツールを実行するためのターゲットを選択している場合、HP SIMはツールが作成される前にそれらのシステム上の新しいツールを実行しようとします。そのため、ツールの実行が失敗し、ツールが存在しないと報告されます。ただし、その後でツールを使用すると成功します。

ツールボックスに関する問題

以前のバージョンのHP SIMの[監視ツール]ツールボックスのいくつかは、HP SIM 5.0で削除されました。それらは管理者タイプの機能が管理者レベル ファイルへのアクセスをHP SIMの非管理者のユーザに提供します。前のバージョンからアップグレードする場合、これらのツールは[監視ツール]ツールボックスに残ります。[監視ツール]ツールボックスおよび作成したその他のツールボックスの内容を確認し、これらのツールを削除する必要があります。

4.2以降からアップグレードした場合は、次のツールが含まれています。

- type [General Tools]
- cat [General Tools]
- find [General Tools]

4.2より前のバージョンからアップグレードした場合は、次のツールが含まれています。

- type [General Tools]
- cat [General Tools]
- find [General Tools]
- cp [General Tools]
- mv [General Tools]
- rm [General Tools]
- copy [General Tools]
- del [General Tools]
- rmdir [General Tools]
- net [General Tools]
- Cards and Devices - pdweb [System Administration]
- Kernel Configuration - kcweb [System Administration]
- Webmin [View]

このツールを削除するには、次の手順に従ってください。

1. 設定に関する全権を持ったユーザでHP SIMにサインインします。
2. [オプション]、[セキュリティ]、[ユーザおよび認証]の順に選択し、[ツールボックス]タブをクリックします。
3. [監視ツール]ツールボックスを選択します。
4. [編集]をクリックします。
5. [ツールボックスの内容]パネルから、削除するツールを選択して、[<<]ボタンをクリックします。
6. [OK]をクリックして保存します。

トラップに関する問題

HP SIMは、現状ではHP GbEスイッチ用のSNMPトラップをサポートしていません。

これは、将来のHP SIMのバージョンでサポートされる予定です。
手作業でGbEスイッチのトラップ サポートをインストールする方法についてはHPサポート
にご連絡ください。

以下のトラップは、トラップから受け取ったデータをもとに動的にそれらの状態を割り当てます。

- cpqFcaLogDrvStatusChange
- cpqFcaSpareStatusChange
- cpqFcTapeCntlrStatusChange
- cpqFca2PhyDrvStatusChange
- cpqFca2AccelStatusChange
- cpqFca2CntlrStatusChange
- cpqExtArrayLogDrvStatusChange
- cpqExtTapeDriveStatusChange
- cpqExtTapeLibraryStatusChange
- cpqExtTapeLibraryDoorStatusChange
- cpqFca3HostCntlrStatusChange
- cpqDa6CntlrStatusChange
- cpqDa6LogDrvStatusChange
- cpqDa6SpareStatusChange
- cpqDa6PhyDrvStatusChange
- cpqDa6AccelStatusChange
- cpqDa6TapeLibraryStatusChange
- cpqDa6TapeLibraryDoorStatusChange
- cpqDa6TapeDriveStatusChange
- cpqIdeAtaDiskStatusChange
- cpqIdeLogicalDriveStatusChange
- cpqScsi3CntlrStatusChange
- cpqScsiCdLibraryStatusChange
- cpqTapeLibraryStatusChange
- cpqTape5PhyDrvStatusChange
- cpqScsi5PhyDrvStatusChange
- cpqScsi3LogDrvStatusChange
- cpqSsExPowerSupplyUpsStatusChange
- cpqSsExTempSensorStatusChange
- cpqSsEx2FanStatusChange
- cpqSsEx2PowerSupplyStatusChange
- cpqSsExBackplaneFanStatusChange
- cpqSsExBackplaneTempStatusChange
- cpqSsExBackplanePowerSupplyStatusChange
- cpqSs5FanStatusChange
- cpqSs5TempStatusChange
- cpqSs5PwrSupplyStatusChange

ツリー ビューに関する問題

削除されたツリー ビューのシステムを選択する場合、HTTP 500エラーが表示されます。
この問題を解決するには、ツリー ビューを更新してください。削除されたシステムは
選択できなくなります。

また、数分待つと、自動的にツリーが更新されます。

アンインストールに関する問題

SuSE Linux Enterprise Server 8 SP3で、rpm -eを使用してHP SIMをアンインストールすると、正常にアンインストールされてもエラー メッセージが表示されます。

SuSE Linux Enterprise Server 8 SP3を実行しているシステムからHP SIMをアンインストールすると、ファイルの削除に失敗したというエラーの表示がコンソール上に表示されます。/var/opt/mxフォルダを手動で削除する必要があります。
"rpm -qa | grep hpsim"コマンドを使用して、HP SIMが削除されたかを確認してください。

SuSE Linux Enterprise Server 9で、rpm -eを使用してHP SIMをアンインストールする場合、コンソールにはエラーが表示されませんが、/var/opt/mxを手動で削除する必要があります。

アップグレードに関する問題

Insightマネージャ7またはServicecontrol Manager 3.0からHP SIMへの移行について詳しくは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/go/hpsim/>（英語）にアクセスして、[Questions & Answers]をクリックしてください。

Compaq Insightマネージャ7から直接HP Systems Insight Manager 5.0にアップグレードすることはサポートされていません。
Compaq Insightマネージャ7は、HP SIM 4.xにアップグレードした後に、HP SIM 5.0にアップグレードすることができます。

HP-UXにインストールされているHP SIMをHP SIM 5.0にアップグレードするときに、自動的に再起動が実行された後に、実際のアップグレードが行われます。
HP-UXアップグレードには、自動的に再起動する処理が含まれていて、すべて完了するまでに約2時間かかります。

アップグレードが完了したかを確認するには、initconfig.logを確認してください。

HP SIMは、TCP/IPプロトコルが有効にされているMSDEが必要です。そのため、HP SIM 4.xから5.0にアップグレードする場合は、TCP/IPプロトコルを有効にしておく必要があります。

1. [スタート]、[ファイル名を指定して実行]の順に選択し、[svrnetcn.exe]と入力します。
2. [無効なプロトコル]ボックスから[TCP/IP]を選択します。
3. [有効]をクリックします。
4. [OK]をクリックします。

Vulnerability and Patch Management Packに関する問題

Vulnerability and Patch Managementのレポート機能は、HP SIM 4.2および5.0がインストールされているHP-UXシステムやLinuxシステムではサポートしていません。

日本語対応に関する補足

Windows用HP Systems Insight Managerバージョン5.0 の 日本語言語ブラウザでの参照に関する制限

Windows用HP Systems Insight Managerバージョン5.0を日本語以外のOS環境へインストールした場合、日本語言語ブラウザでの参照をサポートしません。

ドキュメントについて

HP Systems Insight Managerバージョン5.0 には、英語のオンライン ヘルプ、『HP Systems Insight Manager 5.0 インストール/ユーザ ガイド』、『HP Systems Insight Manager 5.0 リリース ノート』が添付されています。これらの日本語翻訳版は、近日中に以下のURLで公開する予定です。

<http://www.hp.com/jp/hpsim/>

Email通知トラップで送信されるイベント情報に関する問題

Email通知トラップで送信されるイベント情報の一部は英語で表示されます。

ポケットベルによるイベント通知に関する問題

ポケットベルによるイベント通知は、サポートしていません。

Windows用HP Systems Insight Managerバージョン4.0 からの アップグレードに関する問題

Windows用HP Systems Insight Managerバージョン4.0（日本語版）から、バージョン5.0へのアップグレードはサポートされません。

Linux用HP Systems Insight Managerバージョン4.1 からの アップグレードに関する問題

HP Systems Insight Managerバージョン4.1（英語版）から、バージョン5.0へのアップグレード後の日本語言語での参照はサポートされません。

アップグレード後、英語のメニューが作成されてしまう問題

日本語OS環境においてHP Systems Insight Managerをバージョン5.0 へアップグレード後不要な英語のメニューが作成されてしまうことがあります。オプション メニューのツールの削除 機能またはmxtoolコマンドを使用して、不要なメニューを削除することができます。

イベント リストに表示されるトラップ情報に関する問題

イベント リストに表示されるトラップ情報は、一部英語で表示されます。

英語版（表示言語に英語を設定した）ブラウザでの表示に関する問題

日本語OS環境にインストールされているHP Systems Insight Managerバージョン5.0を英語版（表示言語に英語を設定した）ブラウザから参照した場合、一部のメッセージが正しく表示できないことがあります。

Virtualization Management Software 2.0.2（プラグインツール）に関する制限

Virtualization Management Software 2.0.2は、すべて英語で表示されます。

Vulnerability and Patch Management Packに関する制限

Vulnerability and Patch Management Packは、日本語OS環境にインストールすることはできません。

MIB（Management Information Base）のイベント情報について

MIBのイベント情報はすべて英語で表示されます。

エージェント設定のレプリケートの表示について

エージェント設定のレプリケートのステップ3に表示される値は、英語で表示される場合があります。

SNMPのLocation（場所）/Contact（連絡先）情報に日本語ストリングを入力した場合の不具合について

SNMPのLocation（場所）/Contact(連絡先) 情報に日本語文字列を入力した場合、正しく表示できない場合があります。

英語OS環境にインストールしたSIMを日本語言語ブラウザから参照する場合の制限

英語OS上にインストールしたSIMに日本語言語ブラウザから参照を行うと正しく表示できない場合があります。

CSVフォーマットのレポート出力について

CSVフォーマットで生成されるレポートは、文字コードがUTF-8で作成されます。そのためMicrosoft Excel等で参照すると文字化けして表示されます。UTF-8を正常に表示できるテキスト エディタ等で参照してください。

HP SIMのドキュメント

- * HP Systems Insight Managerインストール/ユーザ ガイド。このドキュメントは、HP SIMのインストールと使用開始の準備について記載されています。また、HP SIMに関する基本的な概念や定義、機能についても説明されています。このドキュメントは以下のURLで入手できます。

<http://www.hp.com/jp/hpsim/>

- * HP Systems Insight Managerオンライン ヘルプ。オンライン ヘルプには、HP SIMの使用、保守、トラブルシューティングに関するすべてのドキュメントが含まれています。このドキュメントのPDF版は以下のURLで入手できます。

<http://www.hp.com/jp/hpsim/>

上記以外の一般的な製品情報、White Paper、サポート情報などについても、以下のURLから入手できます。

<http://www.hp.com/jp/hpsim/>

『HP BladeSystem Manager内の、HP BladeSystem Integrated Managementガイド』を参照するには、http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualにアクセスして、[ProLiant Essentials Foundation Pack]をクリックしてください。